03
Aug. 2014

学芸員課程 Newsletter

Newsletter from Course for Prospective Museum Workers, Faculty of Letters, Okayama University

編集・発行：岡山大学文学部学芸員課程
（編集　光本　順）

発　行　日：2014年8月1日

contents

特集 大学所蔵資料を活用した学芸員養成教育
新納　　泉・・・ 1
ココが特徴！大学所蔵資料による実践型教育プログラム
光本　　順・・・ 2
学生コラム・イベント体験記
廣岡あすか・・・ 2
学芸員課程ホームページ開設
知光　星香・・・ 3
学生コラム・思い出のミュージアム
岸川　陽平・・・ 3
先輩学芸員にきこう！
―岡山県立美術館学芸員・福冨幸さん・・・ 4
NEWS & TOPICS・編集後記・・・・・・・・・ 4

特集　大学所蔵資料を活用した学芸員養成教育

新　納　　泉（にいろ　いずみ）
文学部学芸員課程専門委員会委員長

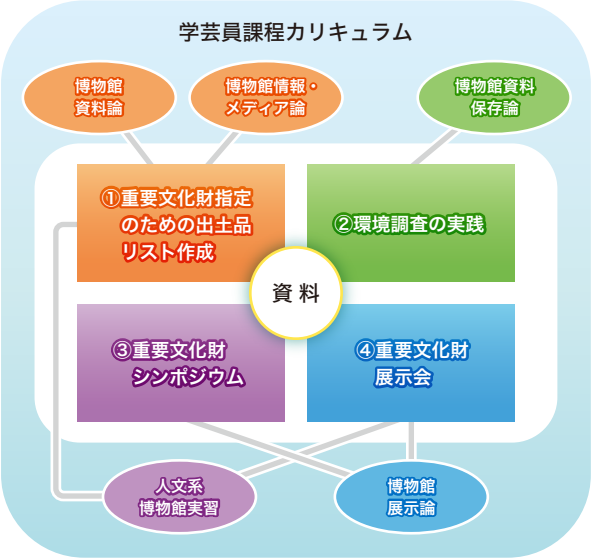
いまからおよそ35年前、倉敷市にある楯築弥生墳丘墓の中心部分が発掘され、全国の人びとを驚かせました。古墳に先行する最大級の弥生墳丘墓。朱が厚く敷きつめられた埋葬施設から出土した副葬品は、卑弥呼にも匹敵する有力者の姿を物語るものとして、毎年のように各地の博物館に貸し出され、展示の目玉のひとつとなっています。

そうした華やかな出土品も、ふだんは多くのものが収蔵庫のなかに影をひそめ、静かに眠っているというのが実情です。岡山県内で最も重要な考古資料群ともささやかれる楯築弥生墳丘墓の出土資料が、大学にあるということで必ずしも十分に活用されていないというのは、あまりにもったいないことと言わざるをえません。そこで、ひとまず国指定の重要文化財として認定を受けることが必要であると考え、平成26年度岡山大学「大学機能強化戦略経費」に「大学所蔵資料を活用した実践型学芸員養成教育の高度化」（代表　金関猛文学部長）として申請を行い、事業の実施が認められることとなりました。

重要文化財への認定を求めるというプロセスを、学芸員養成課程の学生もいっしょに実践していく。リアルタイムの動きのなかに身を置くことによって、学生もその苦労と喜びを分かち合いながら、学芸員への実力を磨いていくという試みを、これから実施していきます。楯築弥生墳丘墓の資料が、重要文化財にふさわしい形で常設的に展示され、多くの方々が自由に楽しめる日が来ることを夢見て、これから作業を進めていきたいと思います。

人文系博物館実習で実施した楯築弥生墳丘墓出土品のリスト化作業風景

ココが特徴！
大学所蔵資料による実践型教育プログラム



大学所蔵資料に基づく実践型教育プログラムは主に以下の特色をもち、地域社会の文化の発展に貢献できる人材の育成をめざします。

Point 1　実物資料や展示・収蔵施設を活用した実践型教育

これまで文学部考古資料展示室では、倉敷市楯築弥生墳丘墓の代表的出土品を展示してきました。さらに収蔵庫には、多数の土器類等が保管されています。

2014年度の学芸員課程では、これら資料の全体を改めて見直す活動を行います。具体的には博物館資料の登録にかかわる作業や展示・収蔵施設の保存環境に関する調査等を実践する予定です。

収蔵庫に保管されていた大量の楯築弥生墳丘墓出土土器の箱を再整理。箱の移動だけでも一苦労。

Point 2　カリキュラムの体系化

学芸員資格取得のための複数の必修科目を、「重要文化財」というトピックによって以下のようにつなぎ、教育内容の体系性を高めます。

- 博物館展示論：重要文化財をテーマとする展示やシンポジウムの企画・運営
- 博物館資料保存論：重要文化財と光の管理、保存環境の整備
- 人文系博物館実習：資料整理、展示企画

学生コラム　イベント体験記

自然系博物館実習生企画イベント「七夕観望会」～そのウラ側を紹介～

平成26年7月7日に理学部にて、七夕観望会が自然科学系博物館実習生主催で行われました。筆者はこの実習生として運営に携わってきました。今回はこの企画の立案から開催までの裏側をお伝えしたいと思います。

七夕観望会のために行うことができた打合せは片手で足りる程度の回数でした。時間の制約がある中で、観望会を行う場所や必要な物資などの基本的なイベント運営に必要な打合せから、天体望遠鏡の使い方の説明という技術的な面まで、専門の先生方の指導を受けながら準備を進めていきました。観望会を行うにあたって、天候について気遣う必要があり、雨天の場合に行う行事の企画も観望会の計画と同時に行いました。

当日、あいにくの雨に見舞われたため、天体望遠鏡を用いた観望会は中止となり、雨天の時用に企画していた4次元デジタル地球儀を用いてのイベントを行うことになりました。時間の関係上、4次元デジタル地球儀の準備や開設の練習を行えなかったため、打合せで埋めきれなかった部分もその場で決めながらの準備となり、打ち合わせの甘さを感じました。しかし、イベントにはたくさんの方に来場していただき、会場が狭いほどの盛況で、頑張って準備した甲斐がありました。イベントに来て下さった皆様には準備不足もあり、スムーズな運営が出来なかったことが心残りですが、わざわざ足を運んでくださったことに感謝しています。今回の経験は普通の授業だけでなく、実践で学ぶことの重要性を感じさせてくれました。このような機会を与えてくれた先生方、来場して下さった皆様、本当にありがとうございました。

（理学部生物学科　廣岡　あすか）

学芸員課程ホームページ開設

http://www.okayama-u.ac.jp/user/pmw

岡山大学文学部学芸員課程ホームページが2014年3月に開設されました。このホームページは平成25年度岡山大学機能強化戦略経費プロジェクトの一環で作成したものです。

内容としては、学芸員課程の説明、岡山大学文学部学芸員課程の特徴、ランチタイム企画などのイベント情報とその広告、プロジェクト紹介、教員紹介等が掲載されています。シンプルな構成なので、どなたがご覧になってもわかりやすいホームページになっています。またホームページ上から「学芸員課程　Newsletter」をダウンロードすることができるので、大変便利です。

今後は、このホームページを学芸員課程に関わっている人々や学芸員に興味がある学生たちの交流の場のひとつとして活用していけたらいいのではないかと考えています。具体的には、①博物館実習を行った学生が感想や気づきを簡単な記事にして実習風景と共にホームページにアップする、②ランチタイム企画等のイベントが行われた際には内容や感想などのフィードバックを見ることができるページを作る、③博物館に関する情報を提供しあう掲示板を設けてみる、といったことを提案します。学生同士が学芸員課程に関する様々な情報を共有することができるのはとても良いことだと考えます。これらのことが実現すると学生たちの学習に役立っていくのではないでしょうか。

さらに、現在は2つのみであるリンク集も今後は増やしていくことが望ましいでしょう。学生にアンケートをとり

掲載してほしいリンクを募集して希望が多かったリンクを載せていくことで、利用者が望む情報を提供することのできる更に良いホームページになるでしょう。

（文学部　行動科学専修コース　知光　星香）

学生コラム　思い出のミュージアム

明石市立天文科学館

明石に生まれた私にとって、明石という町を他の人にわかってもらう説明として、「子午線のまち」というのがありました。そして明石市民にとってそのシンボルとなっていたのが明石市立天文科学館でした。

小学生のときなどには学校の催しでここに行き、いろいろな展示や、プラネタリウムなどを見に行きました。明石市立天文科学館のプラネタリウムは日本国内で現役最古、世界でも5番目に古い現役大型投影機であり、それを聞いたときはそのようなものが自分の町にあるということを誇りに思ったものでした。私は天体に関係する勉強はあまり好きでなかったのですが、プラネタリウムで聞いた神話の話、季節の天体の話は今でも強く印象に残っています。また、銀河系の模型、太陽系の解説映像などもとても興味をそそるものでした。

天文科学館は「子午線のまち」のシンボルとして、暦の歴史や、あらゆる時計の展示もありました。日時計や

砂時計など初期の時計から、和時計、原子時計などの珍しい時計の展示に囲まれると、それがどういうものかわからなかった子供のときにも自然にわくわくしていました。

小さなころに天体観望会に行ったこともありました。夜だったので眠たくて早く帰りたがったことを覚えています。今となってはそんなめったにない機会を無駄にしたことを後悔しています。

最近はあまりいけていないので、近いうちに子供のころとは違う目線で楽しんでこようと考えています。

（文学部　歴史文化学専修コース　岸川　陽平）

先輩学芸員にきこう！

岡山県立美術館学芸員　福冨　幸 さん

ギャラリートーク風景

「先輩学芸員にきこう！」は、岡山大学を卒業された学芸員の先輩に、博物館概論受講生が考える疑問を解決していただくコーナーです。
第２回目は岡山県立美術館の福冨幸さんにこたえていただきました。

略　歴

福 冨　　幸（ふくとみ　こう）　　岡山県立美術館　主任学芸員

1966年　京都市に生まれる
1990年　岡山大学文学部卒。同年　大学院文学研究科哲学専攻(美学美術史)修士課程へ進学。
1993年修了
1991年より岡山県立美術館に学芸員として勤務(97・98年岡山県教育庁文化課に出向)
近代を中心に工芸および日本画を担当

1．美術館学芸員になるには

いつの段階から学芸員になろうと考えましたか。
高３の頃、受験する学部や学科をあれこれ調べる中で学芸員という職業があることを知り、興味をもちました。

なぜ学芸員になろうと考えましたか。
小学生の頃から美術館や博物館へ行くのが好きで、さまざまな作品や文化史に興味があったからです。

学部卒で学芸員になれますか。大学院に進学するべきですか。
学部卒で学芸員になった方はたくさんいます。就職するとなかなか研究する時間が取れません。大学院へ進学することでより専門的な研究や理論的な考察を深める時間を得ることはできると思います。

学芸員としての採用に向けて、どのような勉強をしましたか。
採用前に他の美術館でアルバイトをしていたことはプラスになったと思います。

学芸員になるために学生のうちから行うべきことは何ですか。
機会があれば国内外のさまざまな美術館、博物館、文化施設を見学し、意識を高めておくことをお勧めします。

学芸員は多くの分野に精通しておくことが必要でしょうか。
学芸員は求人が少なく、自身の専門にぴったりマッチした求人があるとは限りません。一人で施設を切り盛りしなければならないところも多く、幅広い知識が要求されます。

2．仕事の実際

就職の前と後で学芸員や美術館に対するイメージは変わりましたか。
イメージはさほど変わりませんが、学芸員も美術館も施設によってそれぞれ手法が違うということがわかりました。

学芸員の仕事にもっともやりがいを感じるのはどのような時ですか。
お客様から「おもしろかった」「よかった」「ありがとう」という言葉をいただいた時。

学芸員の仕事でいちばん大変なことは何ですか。
全体のスケジュールの進行と複数の相手の予定を調整すること。

県立の美術館の学芸員ならではの苦労はありますか。
さまざまな事業を行っている割に、予算が潤沢ではないこと。

作品の価値はどのように判断するのですか。
作品の価格評価は美術品を取り扱う業者が行います。歴史的、文化的な意義づけは、学芸員や学識者が行います。

どのようなことに気をつけて作品の管理や保管をしていますか。
事故（作品を傷つけること）がないよう、温湿度や照度の管理、特に作品の取り扱いには細心の注意をはらいます。

自ら企画した展覧会のうち、いちばん思い入れのあるものは何ですか。
若い頃に手がけた「Female Identity－女はどう表現されてきたか」展です。美術館で初めて土偶や神像から現代美術まで展示しました。

展示などの企画をするうえで何に気をつけるべきですか。
作品を通して、何をお客様に伝えたいかを意識すること。

作品を実際に展示する際、特にどのような点に注意が必要ですか。
事故がないよう取り扱うことと、お客様の思いがけない行動や地震などの災害についても考えられる予防策を施す必要があります。

利用者の方から専門外の質問を受けた場合、どのように対応するのですか。
お時間をいただけるようなら、調べて後ほどお返事します。あるいは質問に適した施設や人、書物等をご紹介します。

大学で学んだどのようなことが現在の学芸員の仕事にいかされていますか。
大学で学ぶことは基本的で大切なことです。仕事はそれを応用し、肉づけし、よりよいものに、より魅力的なものにすることです。

3．メッセージ　―学生のみなさんへ―

学芸員は狭き門ですが、学芸員課程で学ぶことは、企画力、プレゼン能力、交渉力、作品の管理など、どのような仕事についても社会人として生きていく上で役立つ内容です。そして、学芸員に限らずさまざまな立場から、私たちの貴重な文化遺産（作品）を守ることはできると思います。

NEWS & TOPICS

■第３回学芸員課程ランチタイム企画「トーク・ミュージアム」を開催

2014年７月４日に文学部学芸員課程ミュージアム教育実習室にて第３回「トーク・ミュージアム」を開催。本学着任前は美術館学芸員であった佐々木守俊先生（文学部・美術史、右写真）が「美術館学芸員としての生き方」と題してトーク。参加学生からは「美術館と歴史博物館の違いが目から鱗だった」「学芸員にとって研究がいかに重要かがわかった」などの感想があり充実したひとときとなりました。

編集後記

第３号は2014年度の新プロジェクトを特集しました。また、本号ではニュースレター作成を教育にいかす試みを実施。博物館情報・メディア論の一環で２、３頁に学生執筆コラム、記事を掲載しました。「先輩学芸員にきこう！」コーナーも学生（博物館概論受講生）が記事の作成に参加しています。学生の質問にこたえていただいた福冨さんに、改めて感謝いたします。